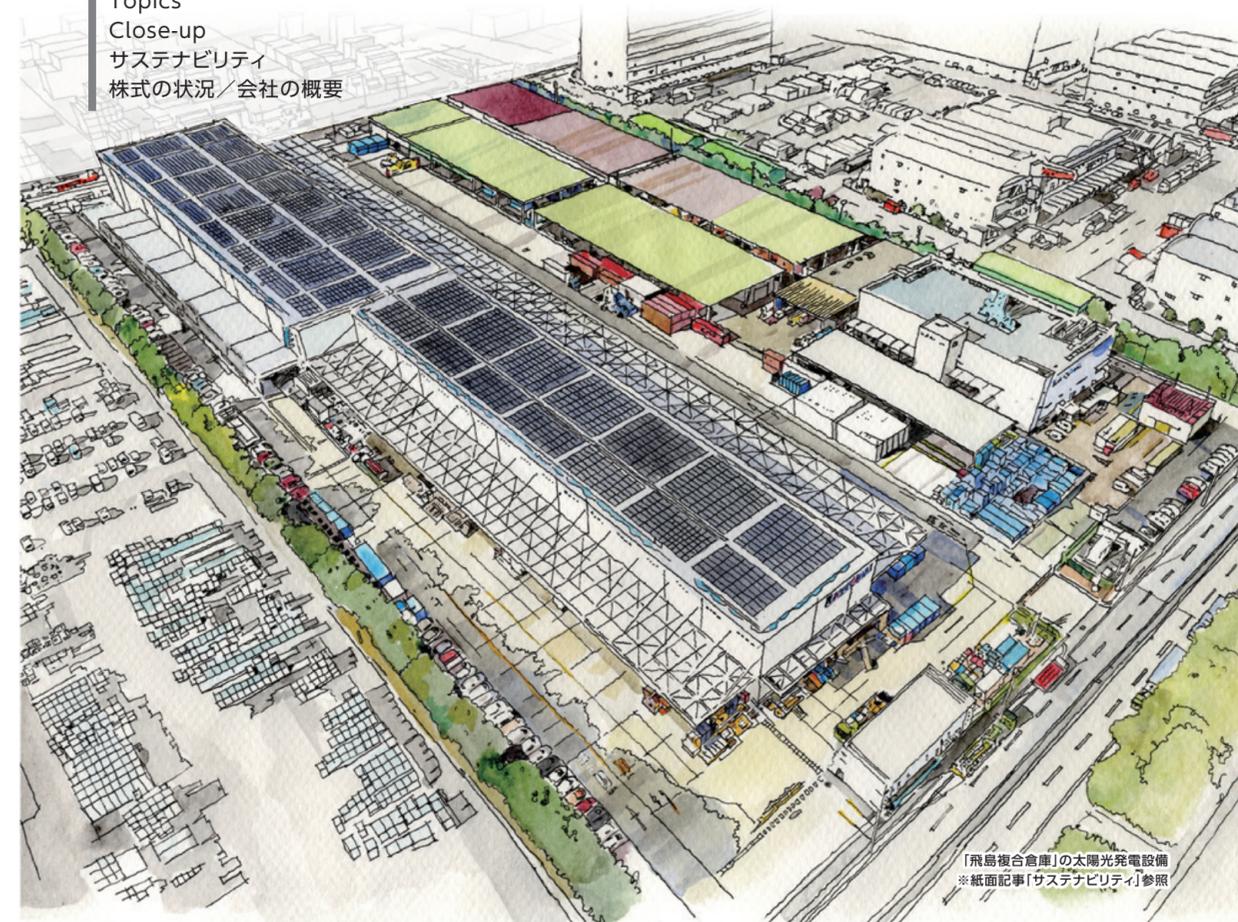


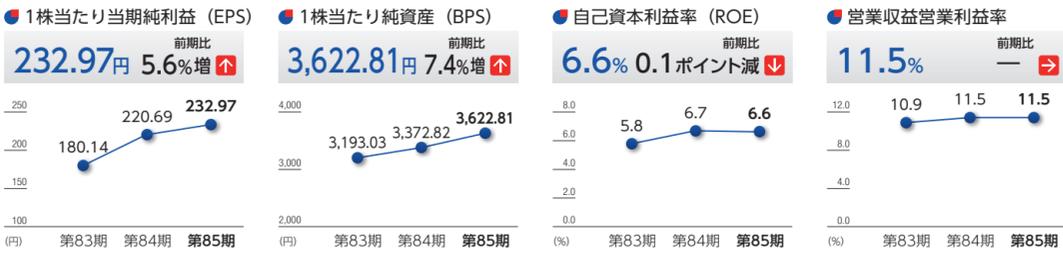
KAMIGUMI REPORT

株主の皆様へ/トップインタビュー
中期経営計画の総仕上げに向け、
グループ一丸で重点施策に取り組みます。

セグメント別概況
連結財務ハイライト
連結財務諸表
Topics
Close-up
サステナビリティ
株式の状況/会社の概要



「飛鳥複合倉庫」の太陽光発電設備
※紙面記事「サステナビリティ」参照



連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

詳細はウェブサイトに掲載されているIR情報をご覧ください。 https://www.kamigumi.co.jp/ir/

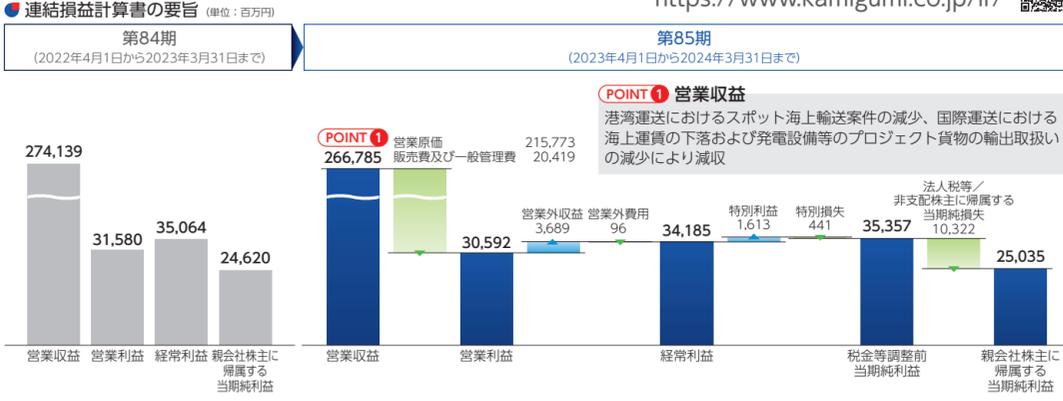


Table of shareholding information as of March 31, 2024, including total shares, major shareholders, and their percentages.

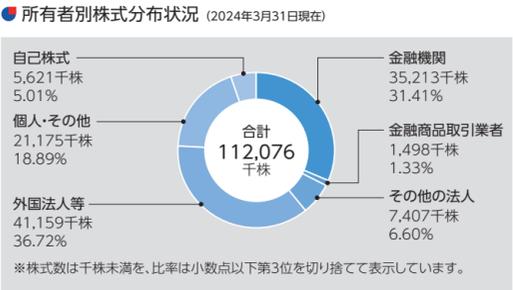
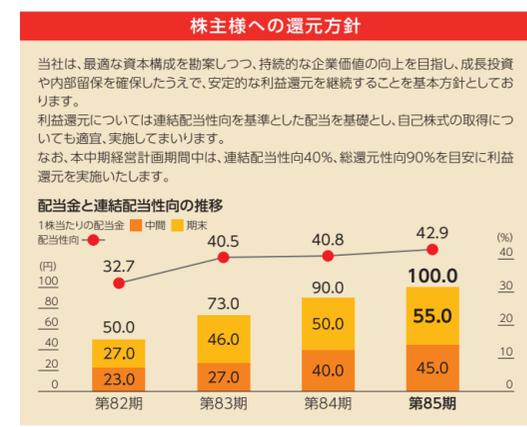


Table of company overview as of March 31, 2024, including company name, founding year, capital, employees, and main business content.

Table of shareholder information (株主メモ) including fiscal year, meeting dates, and contact information.

Table of executive officers (役員) as of April 1, 2024, listing representatives, directors, and supervisors.





中期経営計画の総仕上げに向け、グループ丸で重点施策に取り組みます。

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
当社は中期経営計画の目標達成に向け、基幹事業の強化や新たな成長基盤の創出に向けた取組みを進めた結果、第85期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の業績は、親会社株主に帰属する当期純利益は前期を上回ったものの、営業収益、営業利益、経常利益は共に前期を下回りました。
当期の概況と来期以降の主な取組みについてご説明いたします。

代表取締役社長 **深井 義博**

Q 第85期（2024年3月期）の経営環境と業績について

A 当期の物流業界は、輸出貨物の取扱いは全体として持直しの動きがみられたものの、輸入貨物は横ばいであったことに加え、人手不足や燃料費の高騰など、厳しい経営環境が継続しました。

このような環境の下、当社グループは引き続き、基幹事業の強化など中期経営計画の重点施策に取り組んでまいりました。

しかしながら、当期における営業収益は、バイオマス発電所向け燃料輸送が本格稼働し、収益に寄与したものの、前期のスポット海上輸送案件の反動減を補うには至らず、2.7%減収の2,667億85百万円となりました。利益面についても、営業利益は前期に比べて3.1%減益の305億92百万円、経常利益は2.5%減益の341億85百万円となりましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は投資有価証券

売却益の計上により、1.7%増益の250億35百万円となりました。

Q 第86期（2025年3月期）の経営環境と今後の取組みについて

A 当社グループを取り巻く状況は、歴史的な円安等によるコスト上昇や人口減少社会を見据えた事業活動への備えなど、経営環境は依然として多くの課題を抱え、長期的な変化を想定した経営戦略が求められています。

このような環境の中、中期経営計画の最終年度を迎える当社グループでは、倉庫・サイロの機能強化や新エネルギー関連物流への注力、海外におけるフォーディング事業の拡大など、中計の総仕上げに向け、グループ丸で重点施策に取り組めます。

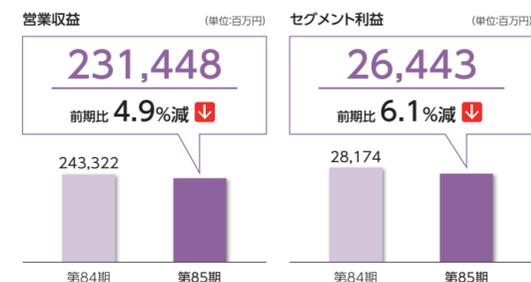
株主の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

セグメント別概況

Segment Review

物流事業

- バイオマス燃料輸送およびプロジェクト貨物の輸入取扱いが収益に寄与したものの、前期のスポット海上輸送案件の反動減を補うには至らず
- 海上運賃の下落およびプロジェクト貨物の輸出取扱いが減少



※上記の営業収益およびセグメント利益の数値は、セグメント間の取引消去前の数値を記載しています。

その他事業

- 風力発電設備等の運搬据付作業が増加
- 天候不良により太陽光発電の発電量が減少
- 新車整備の取扱いならびに燃料および鋼材の物品販売が増加



Topics トピックス

2023年6月

㈱ライト建設を完全子会社化

当社は、2023年6月30日付で㈱ライト建設の全株式を取得し、完全子会社化しました。同社は、重量物輸送のプロフェッショナルとして、豊富な実績とノウハウを有しており、当輸送分野において各方面から非常に高い評価を受けています。

同社の持つ資産の有効活用や人材交流を通じ、重量・建設部門の競争力強化を図るとともに、風力発電や新エネルギー関連業務の受注拡大を目指します。

当社は、中期経営計画に基づく「戦略投資」枠を活用し、資本業務提携やM&Aにも引き続き取り組んでまいります。



▲ライト建設の重量物輸送車両

2023年6月

インドネシアで自動車ターミナル事業に参画

当社は、2023年6月30日にインドネシアのパティンバン国際港における自動車ターミナル運営会社「PT. Patimban International Car Terminal」の株式15%を取得し、自動車ターミナル事業に参画しました。

同港は、インドネシアの急激な経済発展に伴う貨物量の増加に対応するため、日本政府のODA（政府開発援助）により整備されました。自動車関連企業の製造拠点が集積する西ジャワ州に位置する同港では、年々貨物の取扱量が伸びており、自動車ターミナルの事業拡大が見込まれます。

当社は同事業への参画を通じ、インドネシアでのさらなる収益力強化に努めてまいります。



▲パティンバン国際港の自動車ターミナル

2023年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2023年11月

北海道苫小牧市で新たな物流センターの建設に着手

当社は、北海道地区における政府米や国産飼料米を中心とした旺盛な保管需要に対応するため、新たに「晴海物流センター（仮称）」の建設に着手しました。

新物流センターでは、メインの定温庫に加え、冷蔵庫や凍結庫を完備し、多様化する商品ニーズに対応します。また、荷揚地である苫小牧港や配送先に近い立地条件を活かし、輸送時間を短縮するとともに、庫内に設置する160トン分のバルク車積込ホッパーにより、効率的かつ安全なサービスをご提供します。

施設名称	晴海物流センター（仮称）
所在地	北海道苫小牧市晴海町42
延床面積	15,115.69㎡
敷地面積	14,450.00㎡
構造	鉄骨造 2階建、LED照明
主要設備	垂直自動搬送機 2基 バルク車積込ホッパー 160t(20t×8本)
竣工予定日	2025年9月



▲「晴海物流センター（仮称）」の完成予想図

2023年11月

「上組神戸コンテナターミナル」を拡張、利便性が向上

神戸市と阪神国際港湾㈱様が実施する、神戸港のコンテナターミナル再編の一環として、ポートアイランド（PC-18）の「上組神戸コンテナターミナル」が拡張され、拡張部との一体運用を開始しました。

拡張後の総面積は約356,000㎡となり、コンテナの蔵置能力が約5,000TEU増加したことで、当ターミナルの競争力が一段と高まりました。また、搬出入ゲートを13レーン新設し、合わせて出入管理をデジタル化したことで受付時間の大幅な短縮を実現しました。

当社は、これからも「上組神戸コンテナターミナル」のさらなる競争力と利便性の向上を図り、コンテナ船の大型化や物流2024年問題など、港湾を取り巻く事業環境の変化に対応してまいります。



▲拡張後の「上組神戸コンテナターミナル」

2024年

1月

2月

2024年3月

大阪・南港地区に「上組南港R定温倉庫」竣工

大阪・南港地区での食品・穀物などの需要増加に確実に対応し、安定的なサービス提供を行うため、既存の平屋建ての常温倉庫を5階建ての定温倉庫へ建替工事を行い、2024年3月に「上組南港R定温倉庫」として竣工しました。

新倉庫は大阪港の中核に位置し、主要コンテナターミナルや阪神高速道路湾岸線のインターチェンジに近接するなど、非常に利便性が高い立地にあります。これらの強みを活かし、顧客ニーズに即した質の高いサービスを提供することで新規案件の獲得を実現してまいります。

施設名称	上組南港R定温倉庫
所在地	大阪市住之江区南港北2-3-85
延床面積	24,870.62㎡
敷地面積	12,000.00㎡
構造	鉄筋コンクリート造 5階建
主要設備	定温空調設備(5℃～15℃/16,350㎡) LED照明、屋上太陽光自家発電パネル 垂直搬送機 3基
発電容量	約300kW



▲竣工した「上組南港R定温倉庫」

Close-up お客様のニーズに応え、世界各地への輸送を実施

当社は、陸・海・空の輸送手段を組み合わせ、グループ会社・パートナー企業の輸送網を駆使して世界各国への輸送ニーズにお応えしています。

今期の輸送事例として、2023年6月に太陽日酸糖様より酸素や窒素などの産業ガスを生成する大型の空気分離装置の日米間での国際複合一貫輸送業務を受注し、同社国内工場での輸出梱包から、横浜～米国ニューオリンズ～米国マウントパーノンの海上輸送を経て、Matheson Tri-Gas社様の現地工場までの内陸輸送、機器の据付作業までをトータルにサポートしました。

当社はこれからも、多様化するお客様のニーズに即応した物流サービスを世界各地でご提供いたします。



▲本船積込風景



▲据付作業風景

サステナビリティ 「飛島複合倉庫」に太陽光発電設備を設置

「飛島複合倉庫」（愛知県海部郡）に太陽光発電設備を設置し、2024年1月15日より稼働を開始しました。発電電力は自家消費に加え、一部を隣接する「名古屋港流通センター」でも使用*することで、同センターでの使用電力の実質100%を再生可能エネルギー化します。なお、当設備には蓄電池（約1,800kWh）を併設し、昼間に蓄電した電力を夜間や非常用電源としても利用するなど、活用率の最大化を図っています。

当社は2030年度までのCO₂排出量削減目標（2013年3月期比46%減）の達成に向け、今後も環境に配慮した取組みを進めてまいります。

*グリーン電力証書の仕組みを活用し、「飛島複合倉庫」由来の電力で、「名古屋港流通センター」を再生可能エネルギー化

設置倉庫	飛島複合倉庫
所在地	愛知県海部郡飛島村東浜1-5-4
発電容量	約1,350kW
蓄電容量	約1,800kWh
削減予定CO ₂ 量	376t-CO ₂ /年



▲蓄電設備



▲使用電力の再生可能エネルギー化イメージ図